

私は一昨年の秋に急性骨髄性白血病と診断され、すぐに化学療法を受け、昨年春に退院しましたが秋に再発してしまいました。

この病気になった時もそうでしたが、再発時もまだまだやりたい事があるのに、何で自分だけなるのだろうという思いや、死に対する恐怖が頭の中を占領し、しばらく頭から離れませんでした。

以前から再発したら完治させるには移植しかないと言っていたが、当時自分は移植というと骨髄移植という言葉くらいしか聞いたこともなく、もしドナーが見つからなかったら時間切れアウト＝死ではないかというような概念しかない程度のものでした。

今回移植にあたり、主治医から移植の種類や方法、それぞれのメリットデメリットの説明を受けました。そして病状となによりも限りがある時間の中で主治医と自分が決断した移植方法が「さい帯血移植」だったのでした。

さい帯血移植、骨髄移植ともにメリットデメリットがありますが、移植まで時間がない切羽詰まるときはさい帯血移植ほど頼りになるものはありません。

また、さい帯血移植は骨髄移植に比べ白血球の型が多少合ってなくても移植できるということも大きく、数年前からは骨髄移植件数を上回るのもわかる気がします。

私のドナーの方はどなたかわかりませんが、血液の病気で困った方がさい帯血移植を希望し移植することで生命を助けられるのであればとさい帯血を提供して下さいました。本当に助けていただき、ありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

神奈川県 まるさん